

令和3年度 社会福祉法人 百八会 事業報告

1 はじめに

社会福祉法人百八会は、地域から頼られ選ばれる魅力ある施設を目指し基本理念に基づいた活動を行うところであるが、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、様々な活動が制限された。令和3年度においては、制限下の中であつても少しでも地域の力となり寄り添える活動を行った。

魅力ある施設には魅力ある人材の確保が不可欠であることから、職員一人ひとりがいきいきと働き、仕事を通じて成長できる職場環境づくりを目指し、各種研修やメンタルヘルス不調を未然に防ぐためのストレスチェック、人事考課を定期的実施した。法人全体で働き方改革に取り組み、適正かつ効果的な人事考課を行い、魅力ある人材を育成することにより介護サービスの質の向上を図り、地域の皆さまのご期待に添うべく法人の発展並びに社会福祉事業の推進に努めた。

また通年のインフルエンザ等の感染症予防対策に加え、新型コロナウイルス感染拡大予防策を講じ継続的に取り組んだ。「コロナを持ち込まない・広げない」を常に念頭に置き、引き続き、感染症の予防・蔓延防止に向けた取り組みを実施していく。

2 概要

(1) 組織

理事：9名 評議員：10名 監事：2名
評議員選任解任委員：3名

(2) 理事会開催状況

第1回 令和3年6月10日開催
議案 令和3年度 事業報告について
令和3年度 決算報告について
理事の選任(案)について
監事の選任(案)について
評議員選任・解任委員選任について
次期評議員選任候補の推薦(案)について
就業規則の一部改定(案)について
役員等報酬規定の一部改定(案)について
定款の一部改定(案)について
定時評議員会の招集について
理事長の職務執行状況について

第2回 令和3年6月25日開催

議案 理事長選任について

第3回 令和4年2月8日提案（書面決裁）

議案 令和3年度熊本市高齢介護福祉施設等施設整備費補助金
交付決定による簡易陰圧装置設置に係わる指名競争入札
(案)について

第4回 令和4年3月25日提案(書面決裁)

議案 令和3年度 補正予算(案)について
令和4年度 事業計画書(案)について
令和4年度 予算(案)について
賞与に伴う借入金について
就業規則の一部改定(案)について
簡易陰圧装置競争入札結果報告について
理事長職務執行状況報告について

(3) 評議員会開催状況

第1回 令和3年6月25日開催

議案 令和3年度 事業報告について
令和3年度 決算報告について
理事の選任(案)について
監事の選任(案)について
役員等報酬規定の一部改定(案)について
定款の一部変更について

3 事業所

- ・ 特別養護老人ホーム シルバーピアさくら樹
- ・ シルバーピアさくら樹 短期入所生活介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 通所介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 訪問介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 居宅介護支援事業所
- ・ シルバーピア東町 デイサービスセンター
(令和3年1月12日開所)

4 地域福祉の推進

令和 3 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、地域のサロン、健康教室、老人会等の地域行事が中止となり、地域の方との交流がさらに減少した。また、ボランティア受入も制限を余儀なくされたが、ボランティアの作品展示を行うなど、少しでも交流がもてる環境づくりに努めた。

・ 地域交流スペースの活用

東町デイサービス併設の地域交流スペースは、東町団地及び近隣地域の誰もが気軽に立ち寄れる、地域住民の共生・交流の場となることを目的としている。令和 3 年度は、学習支援の企画、第二高等学校美術科の作品展示、8 月からはこども地域食堂を開始した。地域の子供からお年寄りまでの多世代が集い、交流することによって、新たな交友関係が広がり、地域でつながり支え合う互助を生み出すきっかけになるよう努めた。またその中で地域住民同士のコミュニティーが生まれ、高齢者の生きがい・介護予防の場にもなるよう努めた。

・ エコキャップ収集活動

令和 3 年 7 月よりイオン九州株式会社が行っている「ペットボトルで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」が中止になったことから、その後は株式会社永野商店（北部事業所）にエコキャップを届けることとなった。

職員や地域住民、東町婦人会等の協力でペットボトルのキャップを収集し、令和 3 年度は合計約 50kg を届けた。

・ 日本財団へ寄付

2017 年より社会貢献型自動販売機

「夢の貯金箱(日本財団)」を設置し、飲料 1 本につき 10 円を寄付している。

令和 3 年度は 55,200 円を寄付した。

寄附金は災害復興支援に役立てられる。



5 広報

- (1) 「地域交流紙さくら樹」は例年であれば年4回発行するところであるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、全体的に話題が少ない状況にあったため、年2回の発行となった。春号(4月発行)700部と新春合併号(1月発行)500部を発行し、さくら樹での日常の出来事や各事業所紹介、イベント、お知らせ等を掲載した。入居者様のご家族、デイやヘルパー利用者様だけでなく、市内の関係機関、特養、地域住民等へ広く配布し、施設のPRを行った。また、表紙には入居者様や利用者様、職員の写真を掲載することで、親しみのある交流紙として手に取っていただき、有難いご意見やご感想が多く寄せられるようになった。いただいたご意見、ご感想は職員全体で共有し、今後の紙面作成やその他の活動の参考にすることができた。
- (2) 法人運営の透明性確保のためインターネットを活用した。法人のホームページに定款、決算報告、役員報酬、広報紙など法人の情報を公表した。併せて処遇改善計画書の掲示も行っている。熊本市のホームページに現況報告書等を公表している。

6 施設内研修実績

実施月	研修内容（担当部署・委員会）
令和3年 4月	ネット研修（接遇について）
5月	ネット研修（メンタルヘルス）
6月	ネット研修（感染症・食中毒について）
7月	ネット研修（救急蘇生法・救急時の対応）
8月	ネット研修（身体拘束について）
9月	ネット研修（国保連ネットセミナー①）
10月	ネット研修（国保連ネットセミナー②）
11月	ネット研修（国保連ネットセミナー③）
12月	ネット研修（感染症・ノロウイルス/コロナウイルス）
令和4年 1月	ネット研修（事故防止について）
2月	ネット研修（パワハラ・セクハラ）
3月	ネット研修（認知症・看取り）・各委員会の事業報告

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため外部講師を招かず
 令和2年度より、オンライン研修を導入した。
 各自オンラインによる研修を行い、テーマに沿った内容の研修を
 視聴し、感想文を提出した。

7 委員会の実施状況

会議などの名称	参加職員	実施状況	会議の内容
運営委員会	理事長、本部長、 施設長、幹部職員	毎月第1木曜	各事業所の現状・問題点 など
教育委員会	各部署代表	偶数月第1火曜	施設内外の教育・研修に ついて協議、企画実施
安全対策委員会	本部長、施設長、 各部署代表	偶数月第3木曜	ヒヤリハットの検証な どについて
労働安全衛生委員会	施設長、各部署代表	毎月第1木曜	職員の労働・安全・健康 に関する事項
災害対策委員会	施設長、各部署代表	偶数月第3火曜日	防災計画、災害時マニ ユアルの整備
感染対策委員会	施設長、各部署代表	毎月第3金曜日	感染症予防、発生時の感 染拡大防止
福利厚生委員会	各部署代表	随時	職員の福利厚生につい て
苦情・CS委員会	施設長、各部署代表	毎月第3水曜日	サービス向上のための 諸問題検討、解決。施設、 職員への苦言・接遇・ご 意見を取り上げる。再発 防止策の検討・実施。
地域浸透プロジェク ト委員会 ボランティア委員会	各部署代表	毎月第1火曜日	行事の企画実施・広報 誌・ホームページ・展 示・掲示物について ※必要時はボランティ アについて

令和3年度 特別養護老人ホームシルバーピアさくら樹事業報告

1 事業報告

今年も昨年につき新型コロナウイルス感染症の流行により入居者様の生活に多大な影響を及ぼした。感染予防対策の徹底を行いながら、感染状況が落ち着いているときはアクリル板越での面会を再開したが、感染拡大中は面会制限、外出制限、ユニット間の交流中止、集団レクリエーションの縮小等、制限の多い日常生活となった。その中で、私たちは社会福祉法人百八会の基本理念である「個人の尊重」を基本方針として、日々安全で健康な生活が送れるよう、入居者様の新しい生活様式と健康管理に努め、適切な援助、ケアの質の向上のため、自己研鑽と多職種連携に努めた。

2 適切な生活支援

感染予防のため、直接の面会が出来ない状況が続いているが、昨年同様、窓越し面会やタブレットを使ってのLINE面会等を行い、入居者様とご家族がお互いの存在を意識出来るように工夫した。又、窓越し面会やラインのできないご家族に対しては、入居者様の写真を送付、電話にて現状を報告した。居室・リビングの換気等、入居者様の身体・生活状況を把握しながら感染予防に努め、穏やかな日常生活が送れるように配慮した。

年間行事は、季節にあった活動を行った。苗植えから芋ほり、干し柿づくり、足湯、秋祭り、門松づくりをユニット内にて行った。また、餅つき、初詣、紙芝居等の行事は3密を避けるよう、広く換気ができるレクリエーションルームにてユニットごとに行った。2階に中庭が2ヶ所あり、季節を感じられるよう、1ヶ所はチューリップやバラなどの花を植え、もう1ヶ所には枇杷、無花果等を植えて収穫を楽しめるよう工夫した。入居者様が車椅子に座った高さで楽しめるような植物（薔薇・チューリップ等）を選んで植えたところ、非常に喜ばれた。

3 健康管理

今年度の入院者数は25名だった。平均入院日数は25日で昨年より5日減少しているが入院者数は2倍となっており、入院の原因疾患とその予防を考える必要がある。健康診断は年2回実施しているが、今年度は、胸部レントゲンや心電図検査については、水前寺とうや病院からさくら樹へポータブル機器を持参して検査を行ったため、例年よりも入居者様の負担を軽減することができた。入居者様お一人お一人の健康状態（食事量・水分量・排泄状況・睡眠等）の情報交換を密に行い、異常の早期発見に努め、身体状況を判断し速やかに担当医と相談することが出来ており、的確な病院受診につなげることができた。

4 入居者状況（令和4年3月31日現在）

- ① 入居者数：49名 男：7名 女：42名
平均介護度・・・ 4.20（男性：3.89 女性：4.27）
平均年齢・・・ 89.7歳（男性：88.3歳 女性：90.0歳）
- ② 新入居者：11名
男性：2名 女性：9名
- ③ 入居前の居住場所
老健：2名 有料老人ホーム：2名 病院：3名 自宅：4名
- ④ 退去者：12名
施設内で看取り：10名 病院：2名。
- ⑤ 受診の延べ回数・・・182回
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、発熱時は水前寺とうや病院を受診しPCR検査等を行ったため、水前寺とうや病院への受診が昨年より多く、定期的に受診する皮膚科、精神科も合わせて79回と増加した。また、白内障の手術等で眼科受診も増加した。
水前寺とうや病院：75回、皮膚科：48回、精神科：31回、眼科：15回、その他：11回
- ⑥ 入院の延べ人数・・・25人
尿路感染症：9名 誤嚥性肺炎：7名、感染性胃腸炎：2名 脳梗塞・白内障手術・悪性腫瘍・心不全・骨折・眼瞼疔贅・急性腎炎：各1名

5 職員の状況

- ① 委員会活動への参加
今年度も新型コロナウイルス感染症予防のため 定期的な全体の委員会、入居部の委員会を開催することは難しかったが、事前に議題や話し合いの内容を回覧するなどして、3密を避け短時間での委員会を開催した。
- ② 研修参加
今年度も施設外研修のほとんどがオンライン研修となったが、ユニットリーダー研修もオンライン研修で受講することで実施できた。又、施設内研修はネット配信研修を主に受講し、感想文を提出することとした。また、ネット配信研修は指定された研修以外の項目についても自由に視聴することができるため、自分自身が学びたいテーマをユニットのパソコンやスマートフォンで受講することができた。研修内容が豊富で、研修時間も15分から90分までと見たい時にいつでも見ることができるため、職員に好評であった。今後も活用していきたい。

6 一年間を通して

令和3年度もコロナ感染症予防対策に全職員で取り組んだ1年だった。感染症予防対策を徹底していた中、8月にショートステイご利用者1名、令和4年2月に職員1名が新型コロナウイルスに感染した。両者とも家族内での感染で、感染が確認されるまでは利用、出勤をしていたが、施設内に感染が広がること無かったことは、職員一人一人が感染予防対策の徹底に努めていたからこそだと思われる。また、新型コロナウイルス感染症の減少傾向期は、入居者様とご家族がレクリエーションルームにてアクリル板越しに直接面会することができたが、感染拡大傾向になると窓越し面会、LINE面会となり、入居者様、ご家族に我慢していただくことが多かった。

今年度は、年間12名の方が退居され、そのうち10名の方は施設にて看取りを行った。入居者様・ご家族が望まれる最期を迎えるために、ご家族と一緒にカンファレンスを行い、看取り開始後は直接面会をしていただくなど少しでも寄り添うケアができるよう努めた。退去後、1週間から2週間程度で次の方に入居いただいている。新入居については、11名の方が自宅や有料老人ホーム等より入居された。入居後は、ご家族と直接面会が出来なかったため、不安に思われていたが、新しい環境に1日でも早く馴染まれるよう日々のケアに努め、ご家族様にも入居時の様子をLINEで知らせるなどして安心していただいた。

職員については、リーダー全員のユニット異動、職員の他事業所への異動を行った。リーダー全員のユニット異動は初めての試みだったが、リーダー達も初心に戻り自分を振り返ることが出来た。今後も定期的にリーダー異動を行っていく。入退職については、非常勤含む介護福祉士3名、介護士1名、環境整備1名の入職、介護福祉士1名、看護師1名の退職、介護福祉士1名の他事業所異動があった。また、産休・育休をとっていた職員も順次復帰している。介護職員の高齢化や職員不足が懸念されている昨今、新卒者1名が入職してくれたことは、後継者育成に繋がる嬉しいことであった。年度末時点で職員数は充足しており、今後より専門性を追求できるよう、補助金を活用して環境整備を行う等、働きやすい職場風土作りと職員の質の向上に努めていきたい。

7 ショートステイ 利用状況（令和3年度実績）

月	利用人数（延べ）	利用率（％）
4月	149	83
5月	161	87
6月	155	86
7月	160	86
8月	157	84
9月	157	87

10月	145	78
11月	151	84
12月	128	69
R3年1月	135	73
2月	149	89
3月	141	76

ショートステイでは、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、送迎時の検温・消毒・換気の徹底、利用者様・ご家族の行動等の情報収集に努めた。また、車1台に対し1名ずつの送迎やユニット内での座席の工夫（向かい合って座らない）を継続し感染防止に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用を自粛される利用者様（ご家族）もおられたが、他事業所で新規の受入れを制限しているところもあり、ご紹介等も含め新規申込数が増加したため、ご希望の日程が満床で調整が難しく、やむなくお断りするケースもあった。令和2年度の年間延べ利用率84%に対し、令和3年度の年間延べ利用率は82%だった。利用率減少の理由としては、毎月10日程ご利用されている方の緊急入院によるキャンセル、長年、定期利用されていた方の特養入居によるものが大きいと思われる。今後も、各居宅ケアマネジャーとの連携を図り、新規利用者様をご紹介いただくなど、利用につながるような良好な関係づくりに努めていきたい。

令和3年度 シルバーピアさくら樹 通所介護事業所 事業報告書

1 事業報告

介護保険法に基づき、通所介護事業の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の相談員、介護職員及び看護職員等が利用者の社会的孤立感の解消及び、心身機能の維持並びに利用者家族の身体的・精神的負担軽減を図る為、要介護状態または、要支援状態にある高齢者に対し、適正なサービスを提供した。

(営業日及び営業時間)

営業時間	月曜日～土曜日（但し12月31日～1月3日を除く）
サービス提供時間	午前9時15分～午後4時30分
利用定員	50名（令和2年10月1日より55名⇒50名）

2 事業内容

(1) 生活支援

利用者の生活状況を把握し、指導・援助を実施。（家族や利用者間の調整、自立支援のための個別プログラム、利用日の調整など）

(2) 機能訓練

利用者のADLの評価を行い、個々の身体状況に応じてプログラム内容を策定し実施した。またグループ活動におけるゲームや行事参加などに加えて運動療法、音楽療法も実施し職員と利用者との良好な人間関係を築けるような雰囲気づくりを心がけた。

(3) 養護

1日の利用を通じ、利用者が安全かつ快適に過ごせるよう配慮し、食事・歩行・排泄の介助、利用者の自主性や積極性を自然に引き出せるよう人間関係づくりを心がけた。

(4) 健康チェック

毎日の健康チェックは、血圧測定、体温測定、脈拍測定、パルスオキシメーター測定、排便コントロール、血糖測定や定期的な体重測定など、全身状態の把握を行い、利用者に異常があった場合は看護師による処置・適切な対応を行った。

(5) 送迎

利用者宅の玄関からデイサービスの玄関まで(door to door)の送迎を安全に行った。

(6) 入浴

利用者の身体状況と希望に応じて一般浴、個人浴、機械浴、清拭、足浴の対応を行い保清に努めた。また、皮膚状態の観察を行い異常の早期発見と対応に努めた。

(7) 食事

個々の嗜好や健康状態に応じ、栄養の必要量をバランスよく盛り込み、行事食の企画や季節感あふれる献立（管理栄養士が作成）で、個人の咀嚼能力（刻み食、トロミ食、ソフト食など）に応じた対応ができた。また食事前の嚥下体操、食事後の口腔ケアも実施できた。

(8) インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症対策及び対応について年間を通して下記のことを実施した。

- ①施設到着後、手洗いと緑茶でのうがい(現在行っていない)
- ②手指のアルコール消毒（来設後・昼食前・おやつ前に実施）
- ③昼食前のテーブルの消毒と拭き上げ
- ④1日3回以上の換気（常時換気実施）
- ⑤1日3回の消毒（共有の物品）
- ⑥営業終了後に椅子やテーブルなどの消毒を実施
- ⑦加湿器や空気清浄機の設置
- ⑧机にパーテーションの設置
- ⑨レクリエーション内容の変更（カラオケやゲーム等）

上記の他、令和元年12月初旬から職員は常時マスク着用を徹底し、利用者には送迎車内でマスク着用を徹底した。令和2年1月からはボランティア受入を中止した。現在も継続して、利用者のマスク着用を徹底して行っている。

3 その他の活動や行事

(1) 機能回復訓練を目的としたレクリエーション活動の企画と実施

レクリエーションは、「集団で行うもの」「個別に行うもの」の2通りに分け、利用者の希望で参加していただいた。そのことにより利用者間で良好な人間関係を形成していただき、自主性・積極性を引き出す活動を行えた。また職員においては、毎月のデイ会議で企画や実施後の反省点などについて意見交換を行い、次のレクリエーション活動に繋いでいった。

(2) カルチャー

「集団で行うもの」と「個別で行うもの」の2通りに分けて、利用者の希望によりカルチャー活動に参加して頂いた。

(3) ボランティアの受け入れ

現在、新型コロナ等の感染症予防の為、ボランティアの受け入れを中止している。

今後、状況が落ち着けば、下記内容の再開を行っていききたい。

内容：地域の方の協力により、定期的に来設いただき、話し相手や外出の付き添い、日舞・民謡・唱歌・琵琶や三味線・大正琴演奏・尺八やオカリナ演奏・ギター演奏・フラダンス・囲碁・手話ダンス・保育園の慰問、書道、絵手紙・折り紙・ちぎり絵の作品指導に来ていただく。年末には、希望者を対象とした、しめ縄飾りやクリスマスリース作りを実施した。

(4) 地域支援

新型コロナなどの感染症予防の為、参加を見合わせる事が多かった。今後状況が落ち着けば、下記内容の再開を行っていききたい。

内容：近隣の地域で行われている高齢者のサロンや老人会へ参加し、血圧測定や健康相談、ゲームやレクリエーション、健康体操等を実施し地域との交流に努める。

4 利用者の動向

(1) 登録者内訳（令和4年3月31日現在）

①利用者数(名)

	予防	介護	計
男性	4	22	26
女性	11	58	69
合計	15	80	95

休み

入院/入所	13
自宅療養	2
計(名)	15

※3月登録者数 110名

※令和4年3月31日の登録者数 110名（R2年度は124名）。

登録者数のうち15名が入院や老健施設に入所し、実績は110名中95名（約86%の稼働）であった。

（新型コロナによる利用自粛は3名）

②年齢

年齢(歳)	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~	合計
人数(名)	0	1	4	3	14	31	42	95

最年少：67歳

最高齢：101歳

平均年齢：87.9歳

男性：86.8歳 女性：88.3歳

(R4.3.31現在)

平均年齢：87.4歳

男性：85.7歳 女性：88.0歳

(R3.4.1~R4.3.31)

③世帯構成

同居	独居	有料老人 ホーム
84	22	4

計 110 名

④要介護度

介護度	人数	計
要支援 1	11	計 15
要支援 2	4	
要介護 1	45	計 80
要介護 2	19	
要介護 3	9	
要介護 4	3	
要介護 5	4	

合計 95 名

平均介護度：1.57 男性：1.29 女性 1.67 (R4.3.31 現在)

平均介護度：1.64 男性：1.47 女性 1.71 (R3.4.1～R4.3.31)

※平均年齢は昨年より 1 歳増えている。平均介護度はほぼ変わらない。

介護 4～5 の方の利用は昨年と比べ、利用者数 (90⇒104 名)、回数 (881⇒975 件) は共に増えている。引き続き、新規の要介護者や中重度の利用者の受け入れを継続していく。

居宅介護支援事業所 計 40⇒31 事業所

秋津 居宅 (新規)	居宅 熊本東 (新規)	ケアプランセンター真幸 (新規)
花へんろ (新規)	ひろさき居宅 (新規)	あかり
アヤメ	医師会在宅ケアセンター	看護協会くまもと
熊本ケアネットワーク	ぐれいす	熊本ケアプランセンター
くましき	栞	居宅 すいぜんじ
たくまだい熊本	トラスティホームげんき	はあとふる
八王子の杜	ヒルサイドガーデン大樹	ふくし大夢
益城病院	レモン	ライフケアわかば
Let`s ケアプラン! 熊本東	Let`s ケアプラン! 桜十字	在宅 S T 水前寺
ささえりあ 尾ノ上	ささえりあ 桜木・秋津	ささえりあ 江津湖
シルバーピアさくら樹	おんさ (終了)	みどりの樹 健軍 (終了)
ヴィラながみね (終了)	西日本ケアセンター (終了)	ケアプラス (終了)
おびやま居宅 (終了)	はなもも (終了)	ツクイ熊本田井島 (終了)
ふれあいの里 (終了)		

* 新規の事業所との契約が 5 件、終了の事業所が 8 件あった。終了の事業所は 1 件の利用者の入院や入所、死去等によるものであった。

また、さくら樹居宅からの紹介、契約は減少傾向であった（登録数が増えてきたため、一旦新規依頼を中止したのも原因だと考えられる）。

コロナ禍の状況であるが、引き続き居宅へのPRを行っていく。

※月末に実績と利用者の利用状況報告書、空き状況を FAX している

(2) 年間利用者 R3 年 4 月～R 4 年 3 月

①月別利用者(件)

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	自費	計
4 月	45	44	522	144	174	30	32	3	994
5 月	32	36	540	165	155	41	29	2	1,000
6 月	31	36	550	173	157	52	26	3	1,028
7 月	37	30	546	243	155	53	42	2	1,108
8 月	38	26	511	223	125	55	35	1	1,014
9 月	40	24	527	226	113	62	34	2	1,028
10 月	39	26	555	225	106	46	44	3	1,044
11 月	40	26	532	207	105	48	44	2	1,004
12 月	43	24	527	211	115	51	36	3	1,010
1 月	33	34	473	160	100	42	36	2	879
2 月	31	28	479	161	87	41	24	0	851
3 月	44	26	525	183	96	39	33	0	946
合計	453	360	6287	2321	1488	560	415	23	11907
平均	37.8	30	524	193.4	124	46.7	34.6	1.9	992.3

○年間利用者 R3 年 4 月～R 4 年 2 月

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
R3 年	994	1,000	1,028	1,108	1,014	1,028	1,044	1,004	1,010	879	851	946
平均	38.2	38.5	39.5	41.0	39.0	39.5	40.2	38.6	38.9	36.7	35.5	35.0
R2 年	970	916	980	1,042	952	947	1,058	1,028	1,064	983	994	1,072
R1 年	970	958	875	859	927	906	1,052	1,032	990	990	985	993
H30 年	892	956	891	887	937	956	1,083	970	878	762	789	908
H29 年	884	999	916	930	962	963	996	962	928	808	799	955
H28 年	581	851	911	925	914	939	938	923	959	884	841	953

* R3 年度総数 11,907 件 月平均 992.3 件（稼働日 310 日）

* R2 年度総数 12,006 件 月平均 1,000.5 件（稼働日 309 日：台風の為 1 日休業）

* H31 年度総数 11,537 件 月平均 961.4 件（稼働日 311 日）

* H30 年度総数 10,999 件 月平均 909.1 件（稼働日 308 日）

* H29 年度総数 11,102 件 平均 925.2 件

* H28 年度総数 10,619 件 平均 884.9 件（地震の為、6 日間中止）

②月別利用者（名）

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4月	12	6	49	15	15	3	3	103
5月	9	5	51	17	15	4	3	104
6月	9	5	51	18	13	5	3	104
7月	10	4	48	23	13	5	4	107
8月	11	3	49	25	12	5	4	109
9月	11	3	50	26	10	6	5	111
10月	11	3	50	24	9	4	5	106
11月	11	3	49	23	10	5	5	106
12月	11	3	49	22	11	5	6	107
1月	9	5	48	22	13	4	5	107
2月	10	5	47	21	10	4	4	101
3月	11	4	45	19	9	3	4	95
合計	126	49	586	255	140	53	51	1260
平均	10.5	4.1	48.8	21.3	11.7	4.4	4.3	105

○新規・終了

R3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	0	3	4	2	2	3	2	2	3	2	1	1	25
終了	2	8	1	0	0	4	5	1	1	3	2	4	31

* R3年度 月平均で新規2件、終了・中止2.5件。

R2年度 月平均で新規3.5件、終了・中止3件。

<入院・入所・自宅安静等> R3.3.31 15名 R2.3.31 12名

入院等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年	15	12	13	11	12	12	8	7	8	9	8	9	124
R2年	14	13	8	8	4	6	8	9	10	5	9	15	109

* 令和3年度は月目標1,092件、日42件（稼働日26日計算）を目標とした。

上半期は平均39.3件だったが、下半期は37.5件と減少した。年間平均38.4件で目標達成とはならなかった。

* 年間を通し、コロナの影響による利用自粛やワクチン接種に伴う休みや入院なども多かった。今後も新規の受け入れ、利用の定着を図り、利用者の状態変化への対応を早期に行う事で、入院などを予防し、利用の継続を図ってきたい。現在の空き状況に関しては、居宅へ月2回FAXを行っているため、継続していく。

5 令和3年度年間行事

※ 随時 毎月誕生会

	行 事	行事食及び特別献立
4月	・お花見 : 見合わせ ・家族会 : 見合わせ	・行事食 ・セレクトおやつ
5月		・行事食 ・セレクトおやつ
6月		・行事食 ・セレクトおやつ
7月	・七夕祭り 7/7	・七夕食 7/7 ・セレクトおやつ
8月		・行事食 ・セレクトおやつ
9月	・敬老会 9/20 ・飾り馬 : 中止 ・家族会 : 見合わせ	・祝敬老食 9/20 ・セレクトおやつ
10月	・家族会 : 見合わせ ・コスモス見学	・行事食 ・セレクトおやつ
11月	・文化祭 11/1~30	・寿司バイキング 11/1 ・セレクトおやつ
12月	・Xmas リース、しめ飾り作り : 見合わせ ・ゆず湯 12/22 ・クリスマス会 12/24	・クリスマス食 12/24 ・セレクトおやつ
令和4年 1月	・初詣 : 見合わせ	・祝新年食 1/4~1/8 ・セレクトおやつ
2月	・節分 2/3	・恵方巻き 2/3 ・セレクトおやつ
3月	・おひな祭り 3/3	・ちらし寿司 3/3 ・セレクトおやつ

* R3年度は、R2年度と同様に4グループ（季節ごとに）に分け、行事を行う事にしたが、新型コロナウイルスの影響で行事の縮小や見合わせが多かった。R4年度もR3年度と同様に、業務改善や職員の負担軽減を図りつつ、感染予防も考慮し行事等の充実を図っていく。

6 職員（新人）内部研修（第1木曜日）

4月	ネット研修(接遇について)
5月	ネット研修(メンタルヘルス)
6月	ネット研修(感染症・食中毒について)
7月	ネット研修(救急蘇生法・救急時の対応)
8月	ネット研修(身体拘束について)
9月	ネット研修(国保連ネットセミナー①)
10月	ネット研修(国保連ネットセミナー②)
11月	ネット研修(国保連ネットセミナー③)
12月	ネット研修(感染症・ノロウイルス/コロナウイルス)
令和4年 1月	ネット研修(事故防止について)
2月	ネット研修(パワハラ・セクハラ)
3月	ネット研修(認知症・看取り)・各委員会の事業報告

* 専門職としての資質向上と、より良いサービスの提供を目指し、職員の連携を大切にした研修会議を行う予定であったが、新型コロナの影響で自主学習に変更を行った。また、会議も中止や縮小を行った。施設内研修や外部研修も中止や積極的な参加が出来なかった。また、必要に応じて業務の見直しも行った。

7 地域行事・サロン

山ノ内1町内サロン	見合わせ
山ノ内3町内サロン	見合わせ
桜木東校区 夏祭り	見合わせ
山ノ内2町内サロン	見合わせ
東町団地サロン	見合わせ
社協サロン	見合わせ
桜木校区 もちつき	見合わせ
山ノ内4町内サロン	見合わせ

* サロンの予定はあったが、新型コロナの影響で中止が多く、不参加となった。

8 まとめ・総括

令和4年度の目標は下記の通りとし、目標（平均42件/日、1,092件/月）を達成出来るよう事業所一丸となり取り組んでいく。

令和3年度 シルバーピアさくら樹訪問介護事業所 事業報告書

1 事業報告

社会福祉法人百八会の訪問介護事業所は、基本理念を基に事業運営に努めた。利用者が安心して本人らしく生活していただける環境の提供を目指し、事業所と在宅・地域との連携を取りながら事業推進を図った。

また、地域に根ざした幅広いサービスの提供と、法人施設全体のスケールメリットを生かした事業展開を行なった。

- (1) 利用者本位で、尊厳のある生活を守り、自立を目指した生活支援に努めた。
(ADLの維持・向上と高いQOLの実現)
- (2) 利用者が、日々健康な生活を維持できるよう健康管理に努めた。
- (3) 保健・福祉・医療の各関係機関との連携を密にし、サービス提供責任者と訪問介護員のサービスの質の向上を図った。
- (4) 専門職を高めるため各自が自覚をもち、自己研鑽に励み、理論的な裏付けに基づいたサービスの方法・技術の向上に努め、質の高いサービスが提供できる人材の育成を目指した。
- (5) 利用者一人ひとりの嗜好に応えられるよう勉強し、支援した。
- (6) 掃除等、家事については、利用者の出来ないところの支援を行い、保有能力を活かせるように支援した。

2 活動報告

予定していた研修への参加や事業所の広報活動は、コロナの感染予防対策のため殆ど行う事が出来なかったが、関連機関との連携を密にとりながら事業所の魅力や地域に貢献する姿勢のアピールに務めた。

3 訪問介護員(登録ヘルパー)勉強会報告 (登録ヘルパー16名)

- 4月 各自目標設定、法人の理念説明
- 5月 訪問介護員としてのコロナ感染対策
- 6月 介護保険上、ホームヘルパーの出来る事、出来ない事
- 7月 アクシデント・リスクマネジメント
- 8月 訪問介護接遇
- 9月 緊急・救急時の対応
- 10月 認知症を正しく理解する
- 11月 動作介助・排泄介助などの身体介護の手順

12月 感染予防

1月 メンタルヘルス勉強会

2月 病気についての知識と正しい薬の知識

3月 各ヘルパーの一年間の目標達成などの自己評価

4 研修会等参加のまとめ

本年度はコロナ感染予防対策の為勉強会の開催は行わず、各自に資料配布を行いレポートの提出をすることとした。また個別の質問に対してはその都度対応し技術・知識の向上に努めた。施設内はリモートにより各自で研修を行った。

5 一年を通して

法人のコロナ感染症対策を基準としながら、感染対策を講じ、利用者様それぞれの状況に応じた対応をとることで、利用者様の不利益にならないよう健全な在宅生活を守れるよう考慮しつつ、職員にとっても働きやすく働き甲斐のある職場作りを目指した。今後もムダをなくし効率よく、実績向上に繋がるよう努力していく。

令和3年度 シルバーピアさくら樹居宅介護支援事業所 事業報告書

1 事業報告

- (1) 高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向けて関係先と連携し支援を行った。
- (2) 要介護認定となった利用者及び、家族の生活を支援し、在宅介護をはじめとした総合相談に応じるよう努めた。また福祉サービスの提供及び社会資源の有効活用が出来るよう、市町村保険者、地域包括支援センター、保健・医療・福祉サービス提供機関との連絡及び調整を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の対応については、政府が定めた「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を踏まえ、厚生労働省から感染拡大の予防や、感染者が出たときの具体的対応等に関する通知等を踏まえてケアマネジメント業務を行った。

(4) 営業日・営業時間及び営業しない日

営業日	月曜日～土曜日
営業時間	午前8時30分～午後5時
営業しない日	日曜日・祝祭日・年末年始（12/31～1/3）原則として

2 事業内容

- (1) 在宅介護に関する全般的な相談
- (2) 居宅サービス計画、予防サービス支援計画の作成
 - ① 利用者へサービスの選択に必要な情報を提供
 - ② 利用者を支援する上での課題の把握と利用者及び家族への説明
 - ③ サービスの目標、達成時期を盛り込んだ居宅サービス計画の作成
 - ④ サービス担当者会議の定期的開催、担当者との連絡調整
 - ⑤ サービス計画書に対する利用者の同意
 - ⑥ サービスの実施状況の把握と評価
- (3) 行政・地域包括支援センターとの連携
- (4) 医療・福祉との連携
- (5) 新しいサービス、施設等の情報収集
- (6) 医療・介護・福祉に関連した研修
- (7) 地域活動の支援（サロンへの参加、協力、支援）

3 新規利用者紹介先

ささえりあ尾ノ上、ささえりああさひば、九州記念病院、回生会病院、水前寺とうや病院、利用者家族、知人、職員、地域、他居宅事業所、要支援より要介護へ更新等（30件）

※職員の退職にあたり、新規利用者受け入れを9月より停止していた。

4 研修・会議報告

- (1) 事業所内の困難事例検討（毎月）
- (2) 他法人の運営する居宅介護支援事業所との共同事例検討（3ヶ月に1回）
- (3) 課題共有型地域ケア会議・自立支援型の地域ケア会議（オンライン）
- (4) 東区主任ケアマネジャー研修（オンライン）
- (5) 介護サービス事業者支援研修会（オンライン）
- (6) 熊本市東5包括研修会（オンライン）
- (7) ケアプラン研修会（オンライン）
- (8) 熊本市介護保険集団指導（オンライン）
- (9) 熊本県認知症コールセンター研修（オンライン）
- (10) 業務継続計画セミナー（オンライン）
- (11) 介護支援専門員実習受け入れ
- (12) あさひば校区運営推進会議

※その他施設内研修（WEB）、ミーティング（1回/週）等も行っている。

5 利用者実績（比較）

R3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	23	24	25	26	27	26	27	27	24	25	23	23	300
要介護	152	158	159	160	158	151	152	149	149	143	139	139	1809
合計	175	182	184	186	185	177	179	176	173	168	162	162	2109
R2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	22	22	22	22	22	24	22	24	22	20	21	21	264
要介護	145	155	154	151	152	154	163	164	165	156	157	157	1873
合計	167	177	176	173	174	178	185	188	187	176	178	178	2137
R元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	19	17	18	24	25	24	23	23	21	22	24	22	262
要介護	122	126	126	124	122	131	133	137	146	152	149	149	1617
合計	141	143	144	148	147	155	156	160	167	174	173	171	1879

※ ケアマネジャーの退職に伴ない、新規利用者の受け入れを停止したことで、登録者の一時的な減少はあったが、各担当者平均34人と昨年度の35人より1人の減少にとどまった。職員の雇用形態（正職をパートで代用）を調整することで人件費は前年度と同等額程度に収まった。また、新規利用者の受け入れを停止している間も、近隣の包括支援センターやグループ病院との信頼関係は継続して構築に努めたことで、新規受け入れ再開時には各所より新規を依頼してもらうことができた。

まとめ

来年度も行政・地域包括支援センター、関係事業者・病院等と連携を図り、新規利用者の獲得に努め、登録者数を伸ばし、新しい職員を増やすことで、法人やグループ事業所の発展に協力できるように努めていきたい。また、コロナ禍で活動が少なかった地域サロンや、老人会に積極的に参加して地域へ貢献できるようにしたい。

令和3年度 シルバーピア東町デイサービスセンター 事業報告

1 事業報告

介護保険法に基づき、通所介護事業の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の相談員、介護職員及び看護職員等が利用者の社会的孤立感の解消及び、心身機能の維持並びに利用者家族の身体的・精神的負担軽減を図る為、要介護状態または、要支援状態にある高齢者に対し、適正なサービスを提供した。

営業日	月曜日～土曜日（但し12月31日～1月3日を除く）
サービス提供時間	午前9時15分～午後4時30分
利用定員	20名

2 事業内容

① 生活支援

自立支援を中心に、利用者本人/家族・親族への生活状況に合わせた支援を実施した。

② 機能訓練

利用者の病態や併存症、加齢に伴う症状の把握を行い訓練に伴うリスクへ注意を払いながら、利用者・家族が希望する目標に対して個別の訓練計画を作成し実施した。目標はICF(国際生活機能分類)に準じ身体構造・心身機能/活動/参加に着目した目標を立て本人/家族へ説明・同意を得て実施した。

③ 養護

1日の利用を通じ、利用者が安全かつ快適に過ごせるよう配慮し、食事・歩行・排泄の介助、利用者の自主性や積極性を自然に引き出せるよう人間関係づくりを心がけた。

④ 健康状態の確認

毎日の健康チェックは、血圧測定、体温測定、脈拍測定、パルスオキシメーター測定、排便コントロール、定期的な体重測定など、全身状態の把握を行い、利用者に異常があった場合は看護師による処置・適切な対応を行った。状態変化などがあった場合はすみやかに家族・担当ケアマネジャーへの情報共有を行い、密な報告に努めた。

⑤ 送迎

利用者宅の玄関からデイサービスの玄関までの送迎を安全に行った。天候等への対応を随時行い、利用者自身が安全に行うことができる移動手段を主体に送迎を実施した。

⑥ 入浴

利用者の身体状況と希望に応じて一般浴/個別浴/機械浴の対応を行い保清に努めた。また皮膚状態の観察・入浴後の必要な処置等を行い、異常があった場合の早期発見に努め、家族・担当ケアマネジャーへの情報共有および報告に努めた。必要性があれば他事業所へ電話連絡を行い訪問看護などと情報共有を行った。

⑦ 食事

個々の嗜好や健康状態に応じ、栄養の必要量をバランスよく盛り込み行事食の企画や季節感のあふれる献立を管理栄養士が検討し提供した。利用者の嚥下機能に応じた食形態の提供および食事介助・食後の口腔ケアが必要な利用者への対応を行った。

⑧ 感染予防

季節毎の感染予防対策および COVID-19 感染予防対策に対応した。

- ・施設内での手指清潔、施設到着後/食前/排泄後
- ・濃度 70%以上のアルコール消毒
- ・非接触型のアルコールディスペンサー導入（6台）
- ・昼食前テーブルの洗浄
- ・常時換気
- ・設置機材の消毒（1人利用ごとに1消毒対応、上記アルコール濃度）
- ・パーテーションの配置
- ・座席間隔 2m以上
- ・職員/利用者のサービス提供時間（食事時間除く）のマスク着用
- ・施設の入館制限、入館時は名前/電話番号/住所記載+検温/ワクチン接種の有無確認を実施
- ・体温 37.0℃以上の場合は腋下体温計で再検し利用可能か判断した
- ・施設利用後の掃除に界面活性剤セーフキープによる拭き取り
- ・清和会より感染専門看護師による施設ラウンドの実施
- ・3月末より抗原検査キット使用、職員の検査を毎週実施（5週間）
- ・抗原検査キット在庫の確保

⑨ 地域支援

6 地域交流スペース活動報告（以下掲載）を参照。

⑩ その他の活動

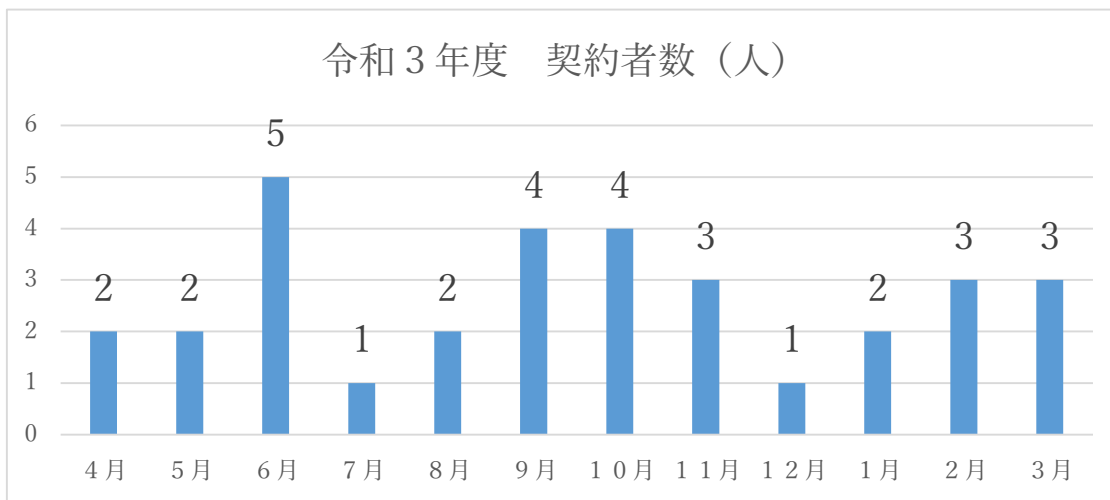
リラクゼーション機器の導入・実施

脳賦活を目的としたトレーニング・レクリエーション（全て個別）

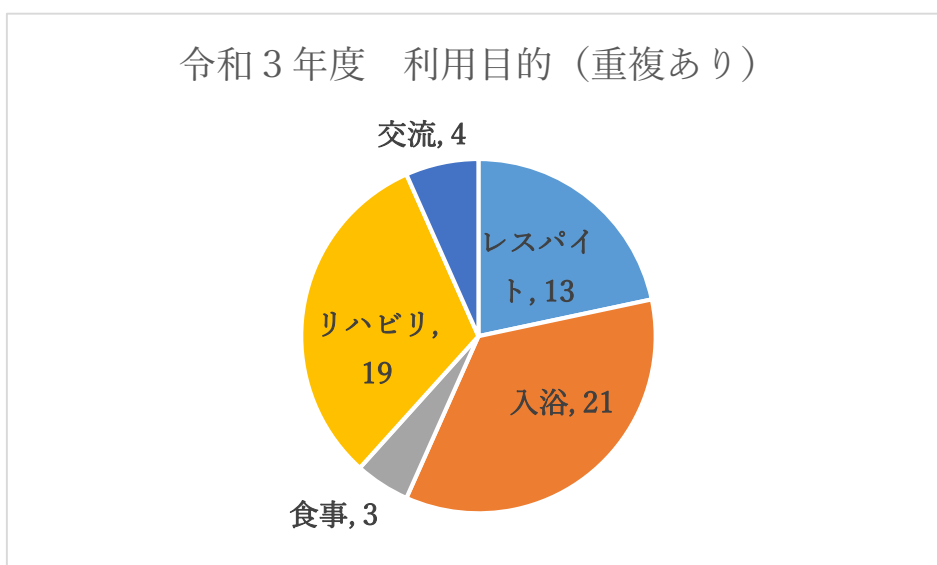
個々の希望に合わせた活動（カラオケ/動画鑑賞）

入浴イベント：柚子や晩白柚を使用した入浴（3回/年）

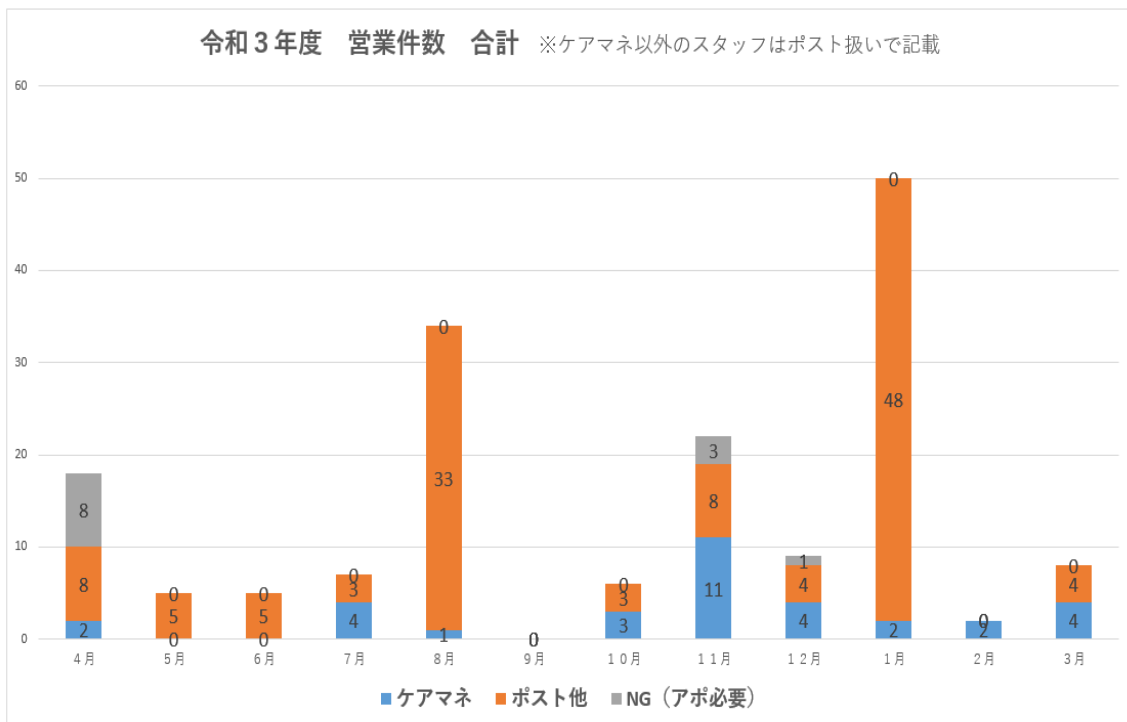
3 利用状況報告



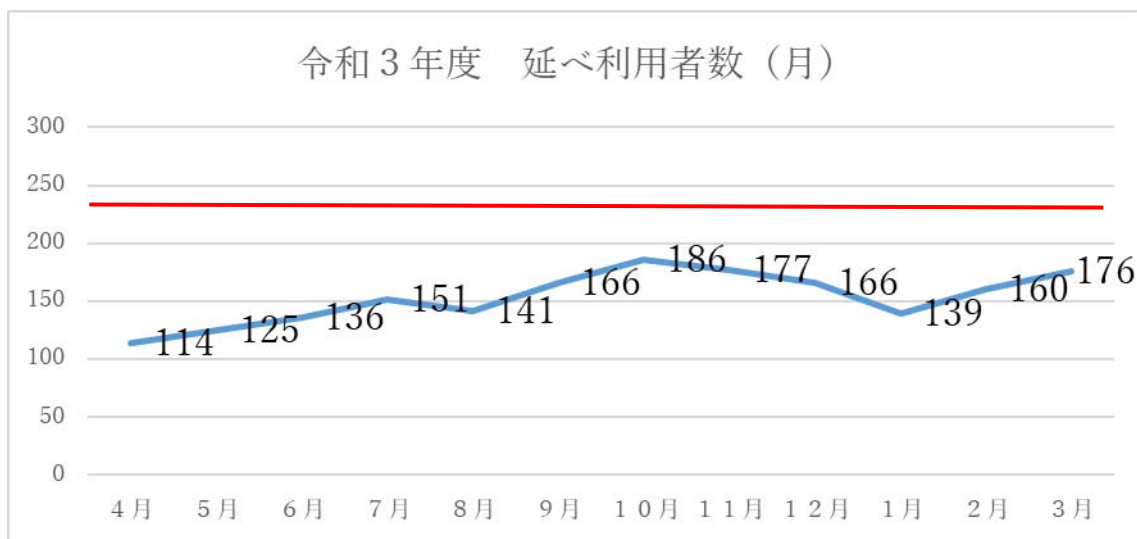
- 年間での契約件数は46件（契約終了は10件）
- 介護度は要介護1・4が最も多く、ついで要介護2・3が多かった。



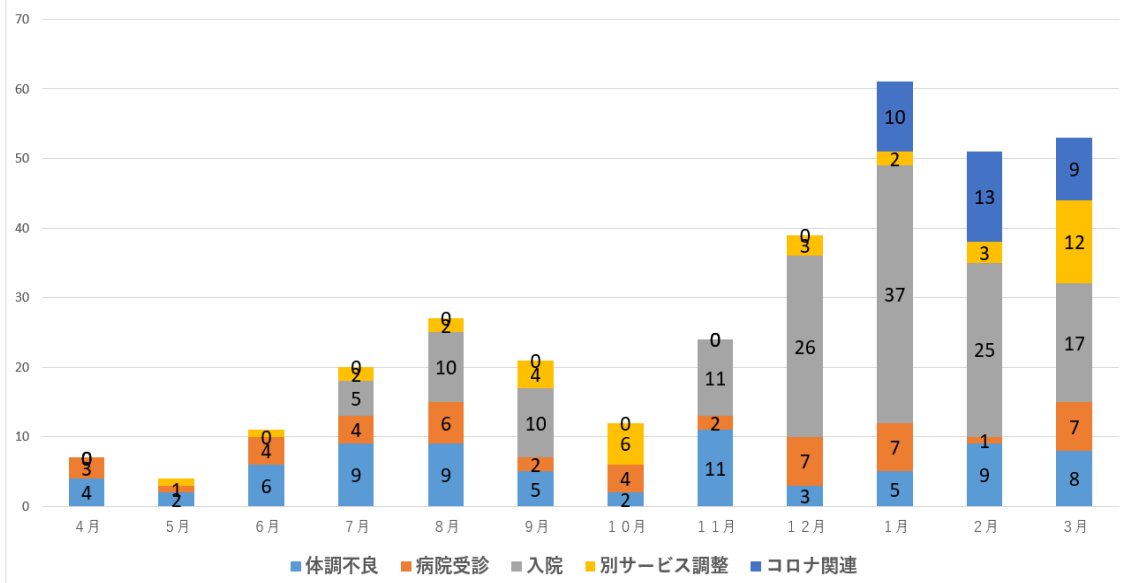
- 利用目的では入浴・リハビリテーション・レスパイトの順が多かった。
- また、入浴目的では3-4時間の短時間利用希望が多く、レスパイト目的では5-6時間、6-7時間、7-8時間の1日利用希望が多かった。



- 令和3年5月、11月ともに熊本県のコロナウィルス感染者増加に伴い訪問営業が実施できない期間があった。対策として、8月、1月は居宅介護支援事業所へのパンフレット郵送を実施した。



令和3年度 キャンセル理由（件数/月）



- 年間目標として、10人/日・延べ利用者数 240人/月と設定したが、令和3年度は11月より入院される利用者が続き、キャンセルの割合が全体の25-30%近く発生した。また、12月～3月の期間ではキャンセルの割合が全体の20-30%となった。年間目標は達成できなかった。
- 主なキャンセル理由は、①利用者の重症度（平均要介護3）が高く、体調不良や入院が増えた ②他サービスとの調整がつかなかった、③コロナ自粛の順で目立った。改善すべき目標として、①利用者数自体の増加（居宅への営業活動と東町団地内への配布）、②キャンセルの振り替え利用のご案内、③利用中の方の回数を増やしていただく、等次年度の目標達成に取り組む。

4 年間行事報告

令和3年度 デイサービス 年間行事

	行 事	行事食及び特別献立
4月		お花見弁当
5月	こどもの日	節句食
6月		入梅食
7月	七夕	七夕食
8月		夏の松花堂弁当

9月		お月見食
10月	ハロウィン	秋の行楽弁当
11月	七五三/寿司の日	お寿司
12月	クリスマス/冬至(柚子湯)	クリスマス食/年越しそば
1月	お正月/七草/鏡開き	正月食/七草がゆ/ぜんざい
2月	節分	恵方巻
3月	ひな祭りイベント	ひな祭り食

※) コロナ感染状況および熊本市コロナ対策に準じ外出等のイベントはできなかった。

5 職員研修

令和3年4月～令和4年3月

内部研修

4月	オンライン研修(接遇について)
5月	オンライン研修(メンタルヘルス)
6月	オンライン研修(感染症・食中毒について)
7月	オンライン研修(救急蘇生法・救急時の対応)
8月	オンライン研修(身体拘束について)
9月	オンライン研修(国保連ネットセミナー①)
10月	オンライン研修(国保連ネットセミナー②)
11月	オンライン研修(国保連ネットセミナー③)
12月	オンライン研修(感染症・ノロウイルス/コロナウイルス)
R4/1月	オンライン研修(事故防止について)
2月	オンライン研修(パワハラ・セクハラ)
3月	オンライン研修(認知症・看取り)・各委員会の事業報告

外部研修

12月	12/16 子ども食堂 食品衛生講習会・講演会
R4/1月	1/25 LIFE 導入背景・これからの介護現場の在り方
	1/25 つながりと共に生きる そこが地域の縁側・座談会

6 地域交流スペース 活動報告

地域交流スペースは、東町団地及び近隣地域の誰もが気軽に立ち寄れる、地域住民の共生・交流の場となることを目的とし、子供からお年寄りまでの多世代が集い、交流することによって、新たな交友関係が広がり、地域でつながり支え合う互助を生み出すよう努めた。

また、交流することによって自然に生まれる役割によって高齢者の生きがい・介護予防の場にもなるよう努めた。

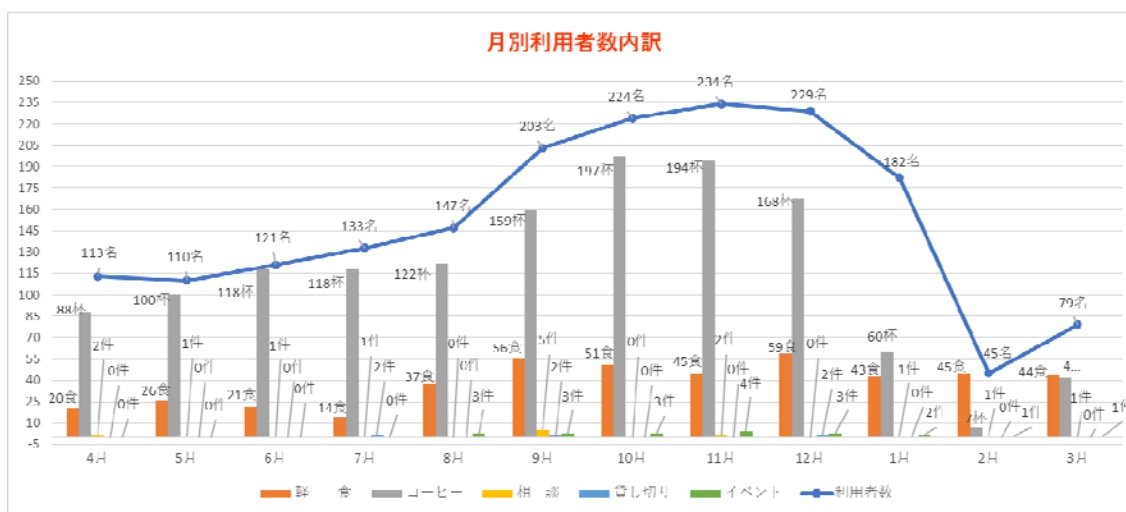
開放日 月曜日～土曜日（12月31日～1月3日を除く）

開放時間 午前10時～16時

●主な活動内容

- ①地域の定例会議や担当者会議などでのスペースの貸し出し
- ②地域交流スペースでのコーヒーの販売（100円）
- ③定期的な移動販売店（パン屋）に場所の提供
- ④定期的なイベントの開催を企画（コロナで中止）
- ⑤子ども地域食堂の開催・・・毎月1回（第三土曜日）
- ⑥子ども学習支援の開催を企画（コロナで中止）
- ⑦第二高校美術科の生徒の版画作品の展示
- ⑧出前講座(AEDの使い方)の開催を企画（コロナで中止）
- ⑨カルチャー活動(月2回野飾り作り)を実施（途中からコロナで中止）
- ⑩広報紙を発行（奇数月）・・・団地や近隣住宅に配布（イベント等の情報提供）
- ⑪様々な問題の相談に対応し、関係先に繋げた。
- ⑫助成金を申請し受け取ることができた。

※熊本県及び熊本市のコロナウイルス感染状況に留意しつつ、臨機応変に対応した。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	113名	110名	121名	133名	147名	203名	224名	234名	229名	182名	45名	79名
軽食	20食	26食	21食	14食	37食	56食	51食	45食	59食	43食	45食	44食
コーヒー	88杯	100杯	118杯	118杯	122杯	159杯	197杯	194杯	168杯	60杯	7杯	42杯
相談	2件	1件	1件	1件	0件	5件	0件	2件	0件	1件	1件	1件
貸し切り	0件	0件	0件	2件	0件	2件	0件	0件	2件	0件	0件	0件
イベント	0件	0件	0件	0件	3件	3件	3件	4件	3件	2件	1件	1件

- 月別利用者は増加傾向にあり、近隣の住民（東町団地）を中心に来設者は増えてきている。しかし、R4. 1. 15～コロナ感染者増のため休館にしたことで、利用者数が減少しているが、R4. 3. 23～コーヒーのテイクアウトのみを開始したことで、少しずつ利用者が増えてきている。コロナが落ち着き次第、再開し利用者数を伸ばしていく。
- R. 4. 1. 5に開所1周年記念として、『ぜんざい会』を企画し実施することができた。
自治会の方や、近隣の会社の支援のおかげで、たくさんの地域の方の利用があった。
- 住民から当施設への要望・相談もあり元来の目的である県営団地の住民の活動を活発にし、交流機会を増やすことができた。
- コロナ禍のため、イベントや講座等の開催ができなかった。今後も、イベントや講座を企画・実施をして地域貢献を図る
- 子ども地域食堂を毎月開催し、少しずつ利用者が増えている。今後も継続し、地域の方や生活困窮者の方などの支援を行っていく。

令和3年度 地域交流スペース 年間行事

	行事・イベント	移動販売	広報紙
4月		さくらベーカリー 第1・3 火曜日 パン工房ふわり 第2・4 火曜日	
5月		同 上	地域交流紙 第2号
6月		同 上	
7月		同 上	地域交流紙 第3号
8月	子ども地域食堂（弁当配布） 子ども学習支援（コロナで中止）	同 上	
9月	子ども地域食堂（弁当配布）	同 上	地域交流紙 第4号
10月	子ども地域食堂（弁当配布）	同 上	
11月	子ども地域食堂（弁当配布）	同 上	地域交流紙 第5号
12月	子ども地域食堂（弁当配布） 子ども学習支援（コロナで中止）	同 上	

	展示会（第二高校美術科）		
R4/1月	ぜんざい会 子ども地域食堂（弁当配布）	同 上	地域交流紙 第6号
2月	子ども地域食堂（弁当配布） 出前講座（コロナで中止）	同 上	
3月	子ども地域食堂（弁当配布）	同 上	地域交流紙 第7号

7 まとめ・総括

令和3年1月12日に東町団地内に開所したシルバーピア東町デイサービスセンターは、無事に1周年を迎え、少しずつ地域住民、地域周辺事業所等に認知していただけるようになった。利用件数は伸び悩んでいるが、最近では東町団地や東本町団地の住民、地域住民からの問い合わせや地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等から新規のご相談をいただけるようになってきた。地域交流スペースの活動も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うような活動はできなかったが、令和3年8月より地域子ども食堂を開始し、毎月第3土曜日に「お弁当」を少額で提供したところ、地域のさまざまな年齢層の方々にお越しいただき交流することができた。今後も定期的に交流紙の配布や訪問等で地域住民、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所へのPR活動を継続し、地域の皆さまから頼られる事業所を目指していく。